

2023年7月20日

明治安田生命「夏に関するアンケート調査」を実施
 今年の夏はコロナ禍の反動で“お金を使う夏”に！？
 夏の過ごし方は「国内旅行」が大差でトップ！“高め・遠め・長め”の傾向！
 夏のボーナスは大幅アップ！増加額は今年の2倍以上！

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 永島 英器）は、夏休みを前に「夏に関するアンケート調査」を実施しましたのでご報告します。

1. 夏休みの予算（詳細は5・6ページ参照）

**夏休みの予算は2年連続増加！増やす理由は「旅行に行くため」が多数！
 新型コロナ5類移行後の初めての夏休みは“お金を使う夏”に！？**

- ・ **今年の夏休みに使う金額は平均「72,668円」と、昨年（68,632円）に引き続きコロナ禍前の2019年（68,071円）を上回るとともに、2年連続で増加！**コロナ禍により減少傾向にあった夏休みの予算も、V字回復となる結果に！
- ・ 夏休みに使う金額を昨年より増やす理由は、「**旅行に行くため**」が約7割（67.7%）で、**昨年（49.1%）から18.6pt増加！**新型コロナ5類移行後初めての夏休みとなる今年は、コロナ禍の反動や賃上げの影響等で“お金を使う夏”に！？
- ・ 一方で、昨年より減らす人の6割以上（64.3%）が、減らす理由を「物価高騰により家計が厳しくなったため」と回答。物価高騰が夏休みの予算に影響か！？

明治安田総合研究所 エコノミスト 前田 和孝が
 夏休みの予算について分析！

2. 夏休みの過ごし方（詳細は7～9ページ参照）

**今年の夏休みの過ごし方は「国内旅行」が大差でトップ！
 “高め・遠め・長め”の旅行を楽しむ傾向！**

- ・ 今年の夏休みに外出する人は、昨年（57.5%）に引き続き半数以上（56.6%）！
- ・ 外出する人の過ごし方の**トップは「国内旅行」（54.6%）**、2位は「帰省」（26.2%）、3位は「プール・遊園地・テーマパーク」（21.0%）。また、「海外旅行」（8.7%）は昨年（7.4%）の約1.2倍に増加！
- ・ 「国内旅行」に行く理由の上位は「**新型コロナウイルス感染症が5類へ移行され、外出制限がなくなったため**」（46.2%）、「**コロナ禍で旅行を我慢していたため**」（24.9%）。**3年以上続いたコロナ禍で我慢していた反動からか、今年の夏は旅行に行く人が増加！**

【ご照会先】
 広報部 広報グループ TEL 03-3283-8054

- ・「国内旅行」または「海外旅行」については、昨年よりも「費用を増やす」（35.4%）、
「遠くに行く」（33.2%）、「日数を増やす」（27.4%）人が多数！新型コロナ5類
移行や賃上げの影響等も受け、これまでの我慢から一転、“高め・遠め・長め”の旅行
を楽しむ傾向！
- ・また、帰省予定を聞いたところ、3人に1人（33.5%）が帰省の予定あり！
- ・帰省先で楽しみにしていることは、「食事会・飲み会など大人数で集まること」（27.0%）、
「友人と会うこと」（20.4%）など、コロナ禍において避けてきた“人と接すること”
を楽しめる夏に！？

3. 夏のボーナス（詳細は10～12ページ参照）

夏のボーナスは大幅アップ！増加額は去年の2倍以上！

- ・各世帯における夏のボーナスの平均額は「667,258円」と、昨年（600,654円）
から66,604円の大幅アップ！増加額は昨年（31,063円）の2倍以上に！
- ・一方で、夏のボーナスからお小遣いをもらっている夫は半数以下（48.5%）に
とどまり、金額も平均額「67,287円」と昨年からダウン。ボーナスがアップしても
お父さんには厳しい結果に！預貯金に回すことや、夏の旅行などの出費増が影響か！？

明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一が
夏のボーナスについて分析！

4. 今年の夏休みを表す漢字（詳細は13・14ページ参照）

今年の夏休みを表す漢字は「旅」が大幅ランクアップ！

- ・今年の夏休みを表す漢字は、「家」（27.3%）が3年連続トップとなるも、2位に
「楽（楽しい・行楽）」（21.4%）、3位に「旅」（17.3%）がランクイン。「旅」は
昨年11位から大幅ランクアップ！夏の「楽」しい「旅」を連想させる漢字が上位に！
- ・一方で、「近（近い・近場）」「控（控える）」など、外出自粛を連想させる漢字はランク
ダウン

5. 楽しみにしている夏のイベント（詳細は15ページ参照）

夏の風物詩「花火大会」「夏祭り」などを多くの人が楽しみに！

- ・コロナ禍で中止となっていたイベントが4年ぶりに復活する動きがあるなか、楽しみに
しているイベントの上位は「花火大会」（41.7%）、「夏祭り・盆踊り」（27.2%）。
“夏の風物詩”が戻ってくる夏休みを、多くの人が待ち望んでいる結果に！

対象者の属性

1. 調査対象

20代から50代までの男女 1,120人

(注)「4. 今年の夏休みを表す漢字」は、20代から70代までの男女1,680人のデータを使用

2. 調査エリア

全国

3. 調査期間

2023年6月14日(水)～6月23日(金)

4. 調査方法

インターネット調査

5. 回答者の内訳

(単位：人)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	140	140	140	140	140	140	840
女性	140	140	140	140	140	140	840
計	280	280	280	280	280	280	1,680

【 目 次 】

1. 夏休みの予算	5 ページ
2. 夏休みの過ごし方	7 ページ
3. 夏のボーナス	10 ページ
4. 今年の夏休みを表す漢字	13 ページ
5. 楽しみにしている夏のイベント	15 ページ

1. 夏休みの予算

**夏休みの予算は2年連続増加！増やす理由は「旅行に行くため」が多数！
新型コロナ5類移行後の初めての夏休みは“お金を使う夏”に！？**

- 今年の夏休みに使う金額について聞いたところ、平均額は「72,668円」（前年差+4,036円）と、昨年（68,632円）に引き続き、コロナ禍前の2019年（68,071円）を上回るとともに、2年連続で増加となりました。
- 新型コロナウイルス感染者数の増加や行動制限の影響により、夏休みの予算は2020年（65,157円）から減少傾向が続き、2021年（53,807円）には調査開始以来過去最低額を記録しましたが、行動制限の緩和等に伴い、2022年から増加に転じ、今年は7万円台を確保するなど、“V字回復”したと言える結果となりました。また、2023年5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが「5類感染症」に変更となり、行動面でコロナ禍前に戻りつつありますが、消費面でもコロナ禍前に戻りつつあることがうかがえます。ただし、ピークだった2015年（89,296円）の水準からは遠い結果となりました。
- 夏休みに使う金額を昨年より「増やす予定」と回答した人にその理由を聞いたところ、約7割（67.7%）が「旅行に行くため」と回答し、昨年（49.1%）から18.6pt増加しました。新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行後、初めての夏休みとなる今年は、行動制限の撤廃も受けたコロナ禍の反動や、賃上げなどの影響により、“お金を使う夏”となることが予想されます。
- 一方で、昨年より「減らす予定」と回答した人（15.0%）にその理由を聞いたところ、6割以上（64.3%）が「物価高騰により家計が厳しくなったため」と回答しています。コロナ禍の反動により予算が増加するという明るい話題がある一方で、足元の物価高騰が夏休みの予算に影響を与える側面もうかがえる結果となりました。

～エコノミスト 前田 和孝はこう見る！～

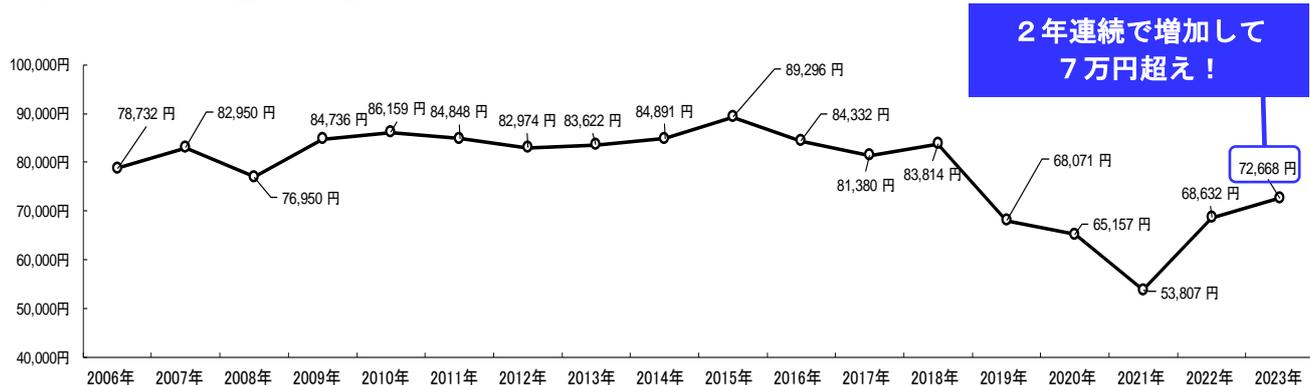
■明治安田総合研究所 経済調査部 エコノミスト 前田 和孝



夏休みに使う金額が、V字回復した昨年をさらに上回るという明るい結果となりました。金額を「増やす予定」とした人の約7割が「旅行に行くため」と回答しており、コロナ禍で溜まった旅行需要はまだまだ旺盛のようです。5月にコロナの感染症法の位置づけが季節性インフルエンザと同じ5類に変更されたことで、安堵感が生まれていることもこうした動きを後押ししている模様です。

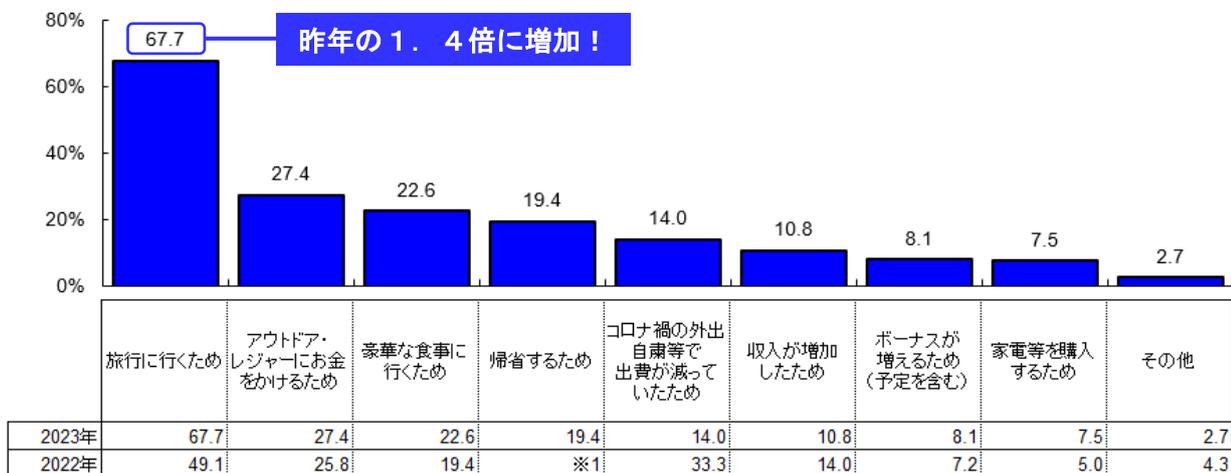
ただ、それでもコロナ前のピークである2015年と比べれば、まだ15,000円以上少ない状況です。「減らす予定」とした人の約65%が物価高騰を理由に挙げており、電気代や食品といった身の回りの商品・サービスの値上がりが家計の逆風になっている様子がうかがえます。今年の夏は平年より暑くなるとの予報もあり、猛暑となれば電気代がかさむ可能性があるほか、食品の値上げも少なくとも秋口までは続きそうです。暮らし向きの改善にはもう少し時間がかかるかもしれません。

■夏休みに使う金額の推移



■夏休みに使う金額を「増やす」理由（複数回答）

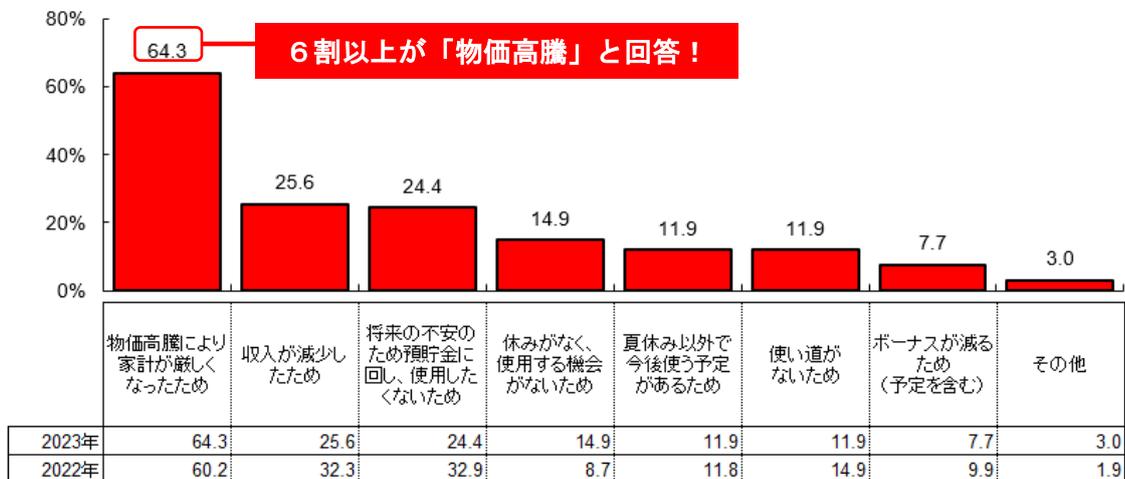
（回答対象：夏休みに使う金額を増やす予定の人）



※1：2022年アンケートでは選択肢なし

■夏休みに使う金額を「減らす」理由（複数回答）

（回答対象：夏休みに使う金額を減らす予定の人）



2. 夏休みの過ごし方

**今年の夏休みの過ごし方は「国内旅行」が大差でトップ！
“高め・遠め・長め”の旅行を楽しむ傾向！**

(1) 外出について

- 今年の夏休みに外出するかどうかについて聞いたところ、「外出する」と回答した人は56.6%と、昨年(57.5%)に引き続き、半数以上の人が今年の夏も外出する予定を立てています。なお、昨年自宅で過ごした人のうち、今年「外出する」と回答した人に理由を聞いたところ、「新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、外出制限がなくなったため」が約8割(77.4%)と、新型コロナの5類移行が外出意欲に影響したようです。
- また、外出する人について世帯別に見ると、「未婚」(44.5%)や「既婚子どもなし」(52.4%)は約半数であるのに対し、「既婚子どもあり」は3人に2人(67.5%)となりました。外出して、子どもに夏休みの思い出を作ってあげたいという親の気持ちがうかがえます。
- 「外出する」と回答した人に夏休みの過ごし方を聞いたところ、トップは「国内旅行」(54.6%)、2位は「帰省」(26.2%)、3位は「プール・遊園地・テーマパーク」(21.0%)で、「国内旅行」が大差でトップとなりました。また、「海外旅行」に行く回答した人が8.7%と、昨年(7.4%)の約1.2倍に増加しました。

(2) 旅行について

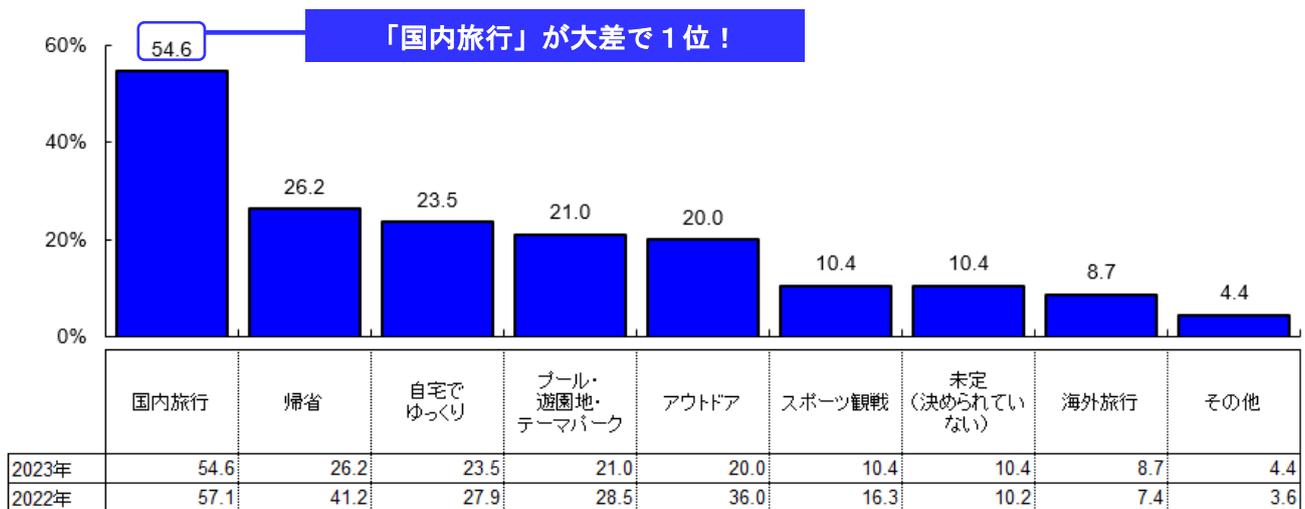
- 「国内旅行」または「海外旅行」に行く回答した人に理由を聞いてみたところ、「新型コロナウイルス感染症が5類へ移行され、外出制限がなくなったため」(46.2%)、「コロナ禍で旅行を我慢していたため」(24.9%)が上位となりました。3年以上続いたコロナ禍で我慢していた反動からか、今年の夏は旅行に行く人が増加しているようです。
- 「国内旅行」または「海外旅行」に行く回答した人に昨年までの旅行との違いを聞いたところ、「費用を増やす」(35.4%)、「遠くに行く」(33.2%)、「日数を増やす」(27.4%)が上位を占める結果となりました。新型コロナの5類移行や賃上げの影響等も受け、これまでの我慢から一転、“高め・遠め・長め”の旅行を楽しむ傾向がみとれます。

(3) 帰省について

- 夏休みの帰省有無について聞いたところ、3人に1人(33.5%)が「帰省の予定がある」と回答しました。
- 帰省先で楽しみにしていることについて聞いたところ、トップは「両親・親戚と会うこと」(69.9%)ですが、「食事会・飲み会など大人数で集まること」(27.0%)、「友人と会うこと」(20.4%)など、コロナ禍では避けてきた“人と接すること”を楽しみにしている人も多く、久しぶりに帰省先で親戚や友人などと過ごすことを待ち望んでいる様子が見えます。

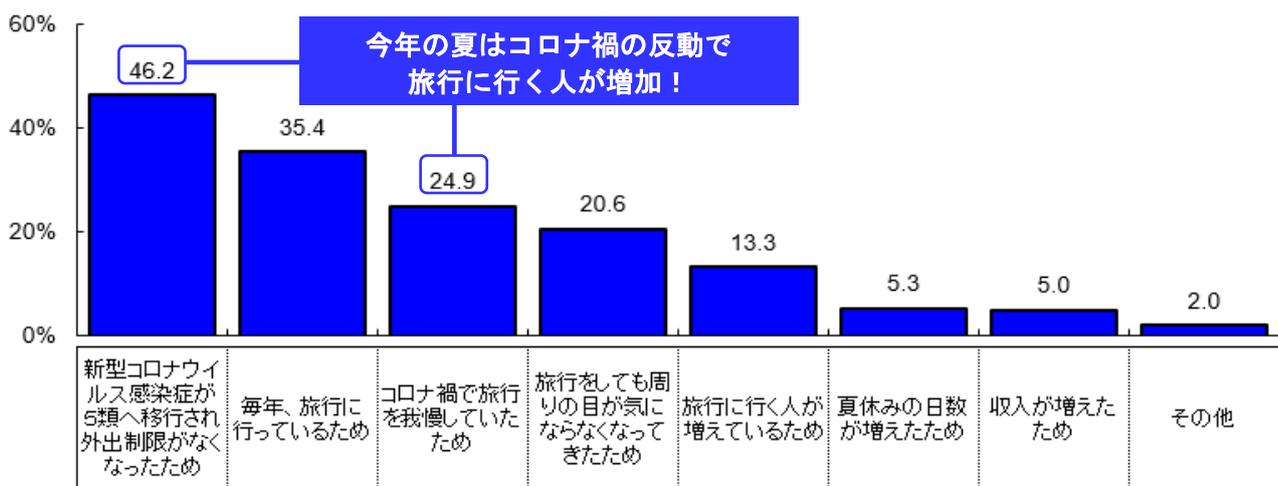
■夏休みの過ごし方（複数回答）

（回答対象：今年の夏休みに外出する人）



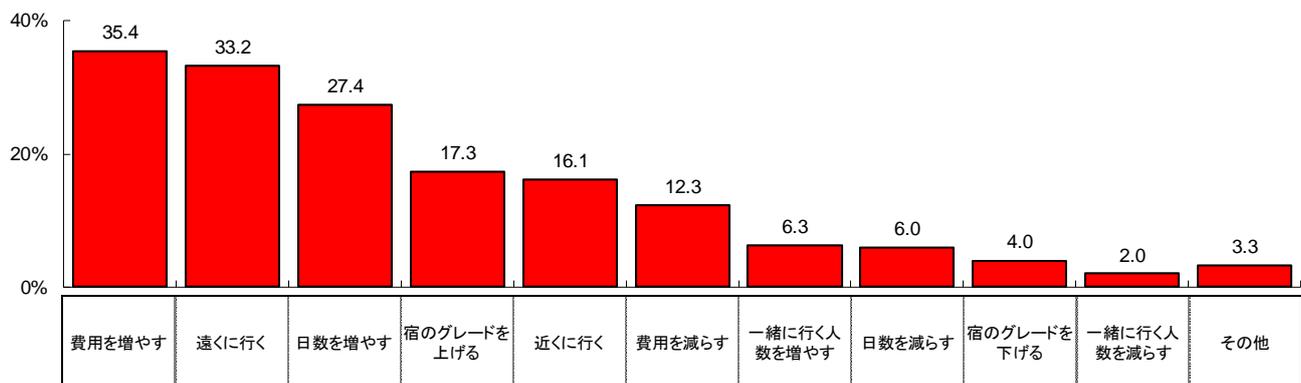
■今年の夏「旅行」に行く理由（複数回答）

（回答対象：「国内旅行」または「海外旅行」に行く人）



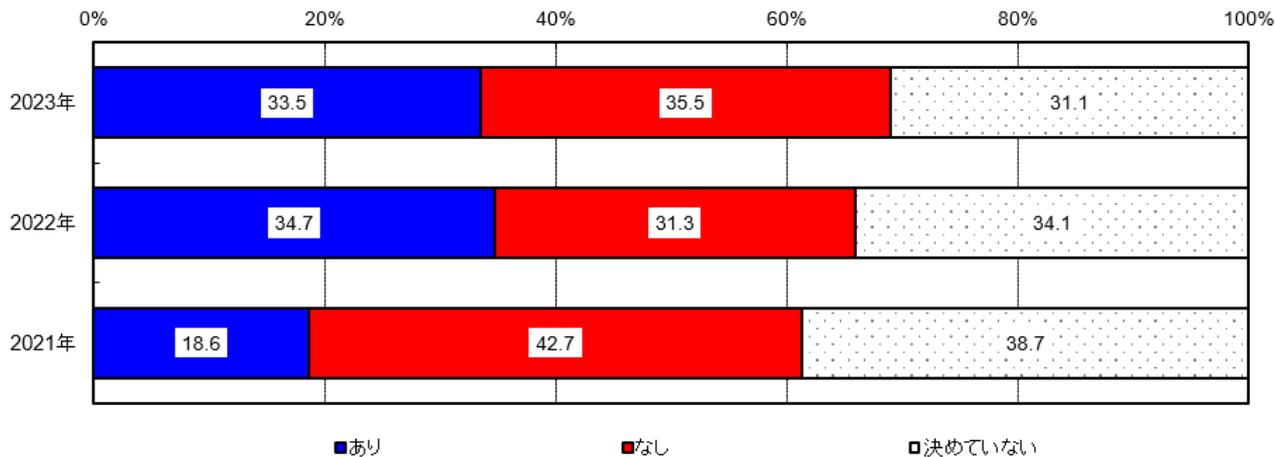
■今年の夏の旅行の変化（これまでの旅行との違い）（複数回答）

（回答対象：「国内旅行」または「海外旅行」に行く人）



■夏休みの帰省予定有無

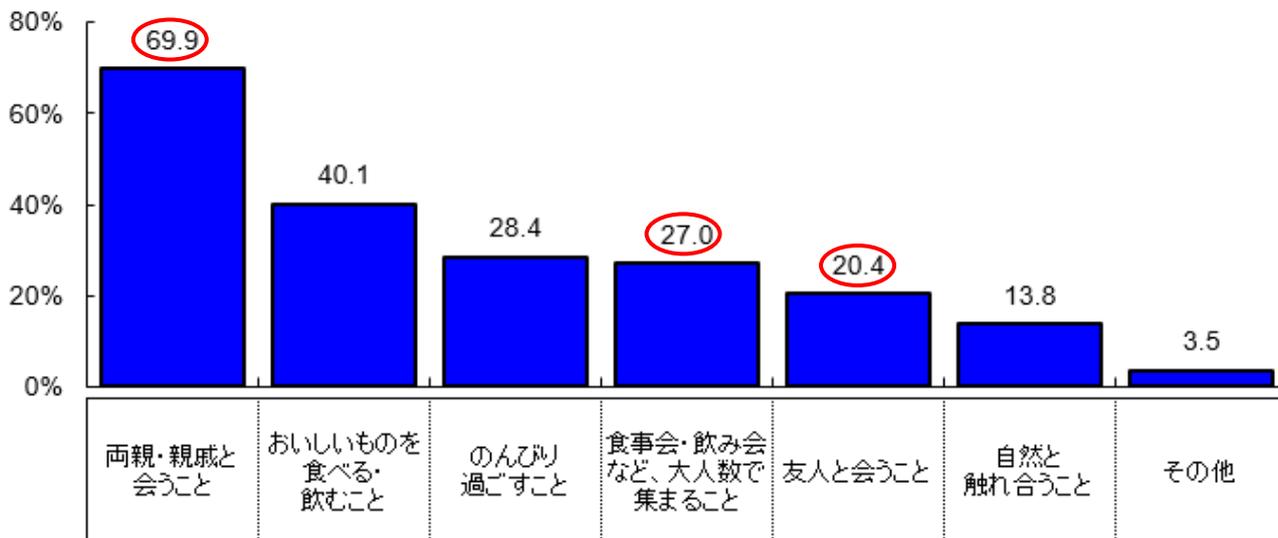
(回答対象：帰省先がある人)



(注) 回答者自身の帰省先がない場合は離れて暮らす子ども等の帰省予定を回答

■帰省先で楽しみにしていること

(回答対象：帰省する人)



3. 夏のボーナス

夏のボーナスは大幅アップ！増加額は昨年の2倍以上！

- 今年の夏のボーナスについて聞いたところ、夏のボーナスの平均額は「667,258円」と、昨年の「600,654円」から66,604円の大幅アップとなりました。また、増加額は、昨年の（31,063円）の2倍以上となりました。
- また、夏のボーナスの増減について聞いたところ、昨年より「増えた」と回答した人は15.1%で、昨年の11.6%、一昨年の9.0%から徐々に増加しています。昨今の賃上げムードの高まりが、ボーナスにも少しずつ反映しているのかもしれませんが。
- 夏のボーナスの使い道を聞いたところ、「預貯金」（56.0%）がトップであるものの、2位は「旅行」（32.4%）、3位は「趣味・レジャー」（28.1%）、4位は「外食」（20.2%）が続きました。この結果は2019年とほぼ同様であり、コロナ禍前の日常が徐々に戻っているのかもしれませんが。
- 一方で、夏のボーナスからお小遣いをもらっている夫は半数にも届かず（48.5%）、金額も平均額「67,287円」と昨年の「90,055円」から大幅にダウンしました。ボーナスがアップしてもお小遣いは減るとい、お父さんには厳しい結果となりました。今後の備えとして預貯金に回すことや、夏の旅行などの出費が増えることが影響しているのかもしれませんが。

～フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一はこう見る！～

■明治安田総合研究所 フェロー チーフエコノミスト 小玉 祐一



今年の夏のボーナスは、昨年から11.1%の大幅増という、うれしい結果になりました。春闘における正社員の賃上げ率が30年ぶりの高さに達していたことから、ボーナスの増加もある程度予想された流れです。改めて振り返ると、今年は強気の賃金交渉ができる環境でした。昨年度の企業収益は円安やコロナ禍の反動で急回復しており、経営者の間でも、物価高で苦しむ従業員に還元しなければという機運が醸成されていたためです。問題は来年以降の持続性で、今後景気や物価動向と合わせて見守っていく必要があります。

一方、お父さんのお小遣いは大幅ダウンになってしまいました。明確な理由は不明ですが、昨年が大幅増だったためその反動が出たことに加え、旅行や外食への出費が増した分、お小遣いが抑えられた面もあるのかもしれませんが。お小遣いは元々調整弁になりやすく、世のお父さんにとってはビールの味もちょっぴりほろ苦い夏になりそうです。

■世帯の夏のボーナス額

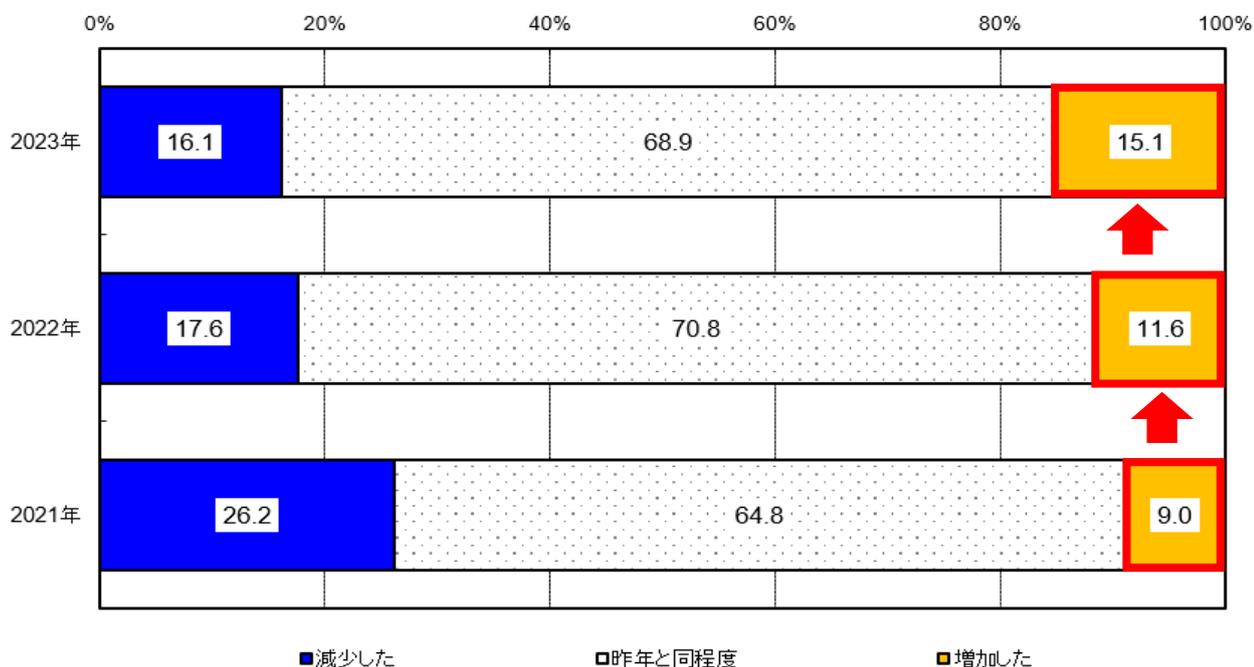
(回答対象：世帯で夏のボーナスがある人)

	回答者数 (人)	平均 (円)
2023年	623	667,258
2022年	682	600,654
2021年	648	569,591

昨年から66,604円アップ!

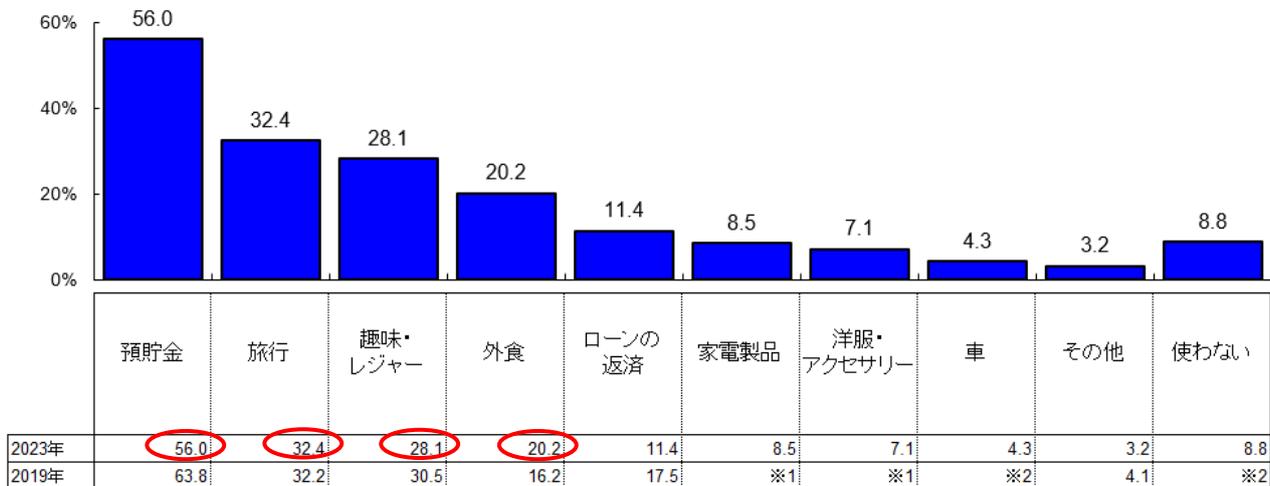
■夏のボーナスの昨年からの増減

(回答対象：世帯で夏のボーナスがある人)



■夏のボーナスの使い道（複数回答）

（回答対象：世帯で夏のボーナスがある人）



※1：2019年アンケートでは「電化製品、洋服・アクセサリーなど高価な買い物」（11.0%）

※2：2019年アンケートでは選択肢なし

■夏のボーナスから夫にお小遣いをあげる金額

（回答対象：世帯で夏のボーナスがある既婚女性のうち夫にお小遣いをあげる人）

	回答者数 (人)	平均 (円)
2023年	115	67,287
2022年	146	90,055
2021年	139	60,223

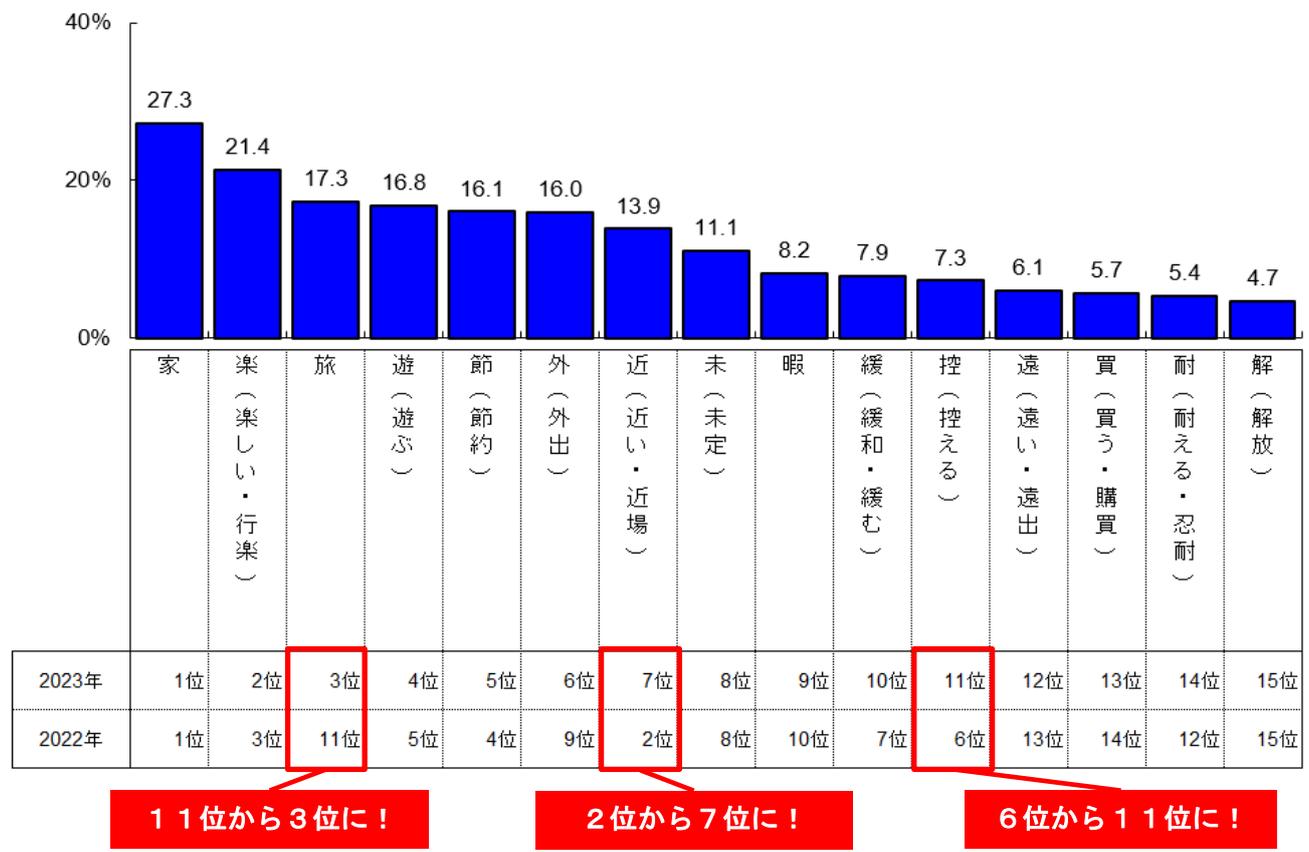
昨年から22,768円ダウン

4. 今年の夏休みを表す漢字

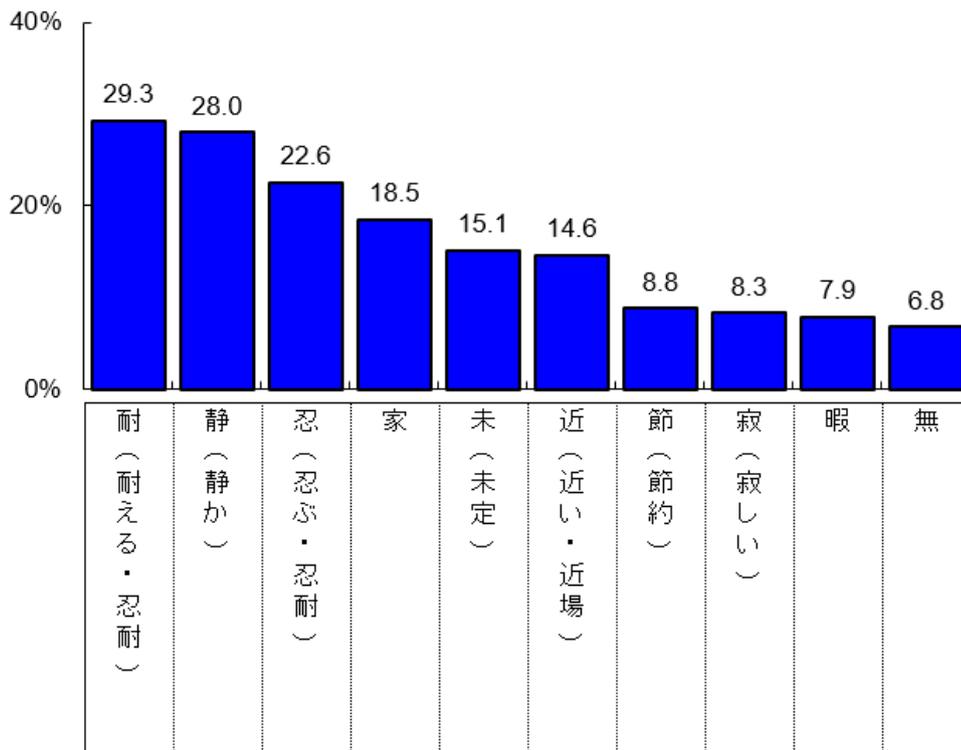
今年の夏休みを表す漢字は「旅」が大幅ランクアップ！

- 今年の夏休みを表す漢字一文字について聞いたところ、「家」（27.3%）が3年連続でトップとなりましたが、2位に「楽（楽しい・行楽）」（21.4%）、3位に「旅」（17.3%）がランクインするなど、夏の楽しい旅を連想させる文字が上位に入りました。特に、「旅」は、昨年11位から大幅ランクアップとなりました。
- 一方で、昨年2位だった「近（近い・近場）」をはじめ、「控（控える）」など外出自粛を連想させる漢字は大幅に順位を下げました。新型コロナの5類移行を受けて、遠くに出かける人や、これまで我慢していた旅行など、リベンジ消費が期待できる結果となりました。
- また、緊急事態宣言下であった2020年をみると、1位から3位は「耐」「静」「忍」と、静かに耐え忍ぶ様子が伺えます。今年の夏とは異なり、コロナ禍が社会に暗い影を落としていたことが漢字からも読み取ることができます。
- 今年の夏休みは、久しぶりの「旅」を「楽」しむ人が増えることが期待されます。

■今年の夏休みを表す漢字一文字（3つまで回答）
（今年2023年と昨年2022年の順位の比較）



■コロナ禍で緊急事態宣言が出ていた2020年の夏休みを表す漢字一文字(3つまで回答)



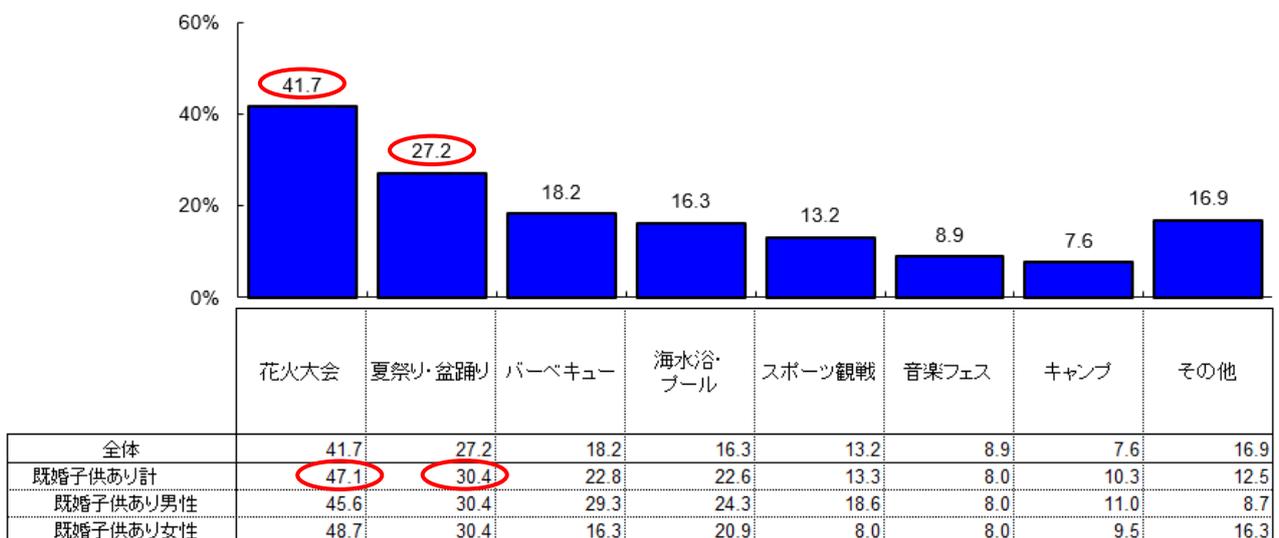
5. 楽しみにしている夏のイベント

夏の風物詩「花火大会」「夏祭り」などを多くの人楽しみに！

○コロナ禍の影響で中止になっていたイベントが4年ぶりに復活する動きがあるなか、楽しみにしている夏のイベントについて聞いたところ、1位「花火大会」（41.7%）、2位「夏祭り・盆踊り」（27.2%）と、“夏の風物詩”とも言えるイベントが上位にランクインしました。

○特に、子どものいる人（既婚子供あり）は「花火大会」や「夏祭り・盆踊り」を全体平均よりも「楽しみにしている」と回答しており、長いコロナ禍で楽しめなかった分、子どもに夏のイベントを楽しんでもらいたいという親心が表れているのかもしれません。

■楽しみにしている夏のイベント（複数回答）



以 上